



どうにかする力

泗水小学校だより
R4. 10. 17(月)
No. 27
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～

後期の授業がスタート！

10月13日(木)に後期の始業式を行い、授業日数102日間(6年生は101日間)の後期の授業がスタートしました。6年生にとっては、いよいよ小学校卒業に向けた半年間が始まったわけで、一日一日を充実した学校生活にしてくれたらと思います。

10～11月にかけては、修学旅行や移動教室、水俣に学ぶ肥後っ子教室、なかよしフェスタなど大きな行事や子どもたちが楽しみにしている行事が続きます。新型コロナの第7波も落ち着いてきて、熊本県はリスクレベル1になりました。同居家族の風邪症状での出席停止はなくなりましたが、子どもたちが楽しみにしている学校行事に参加できるように、今後も感染対策に努めながら教育活動を進めていきたいと思っています。

校内読書月間が始まりました！(10月13日～11月11日)

「本に親しむ機会を増やし、自分の好きな本やお話を見つけ、図書室の利用を習慣づける」ことを目的に、校内読書月間が始まりました。この期間は、図書委員会を中心に様々な取組を行うことになっています。取組としては、

- ①「読書の木」…読んだ本のタイトルと感想をカードに書き、図書室の読書の木に貼ります。今年度は、長編の本への挑戦も目標としており、月間中一人1枚は貼ります。
- ②「読み聞かせ」…図書委員会の子どもたちによる読み聞かせを、給食の時間に放送で行います。
- ③「図書室特別クーポン」…月間中の金曜日に、4冊借りられる(通常は3冊まで)クーポン(当日限定)を、図書室来室者に限り配ります。

これまでの学校だよりにも書きましたが、子どもたちの読書習慣に関して、泗水小は課題が明らかになっています。読書月間を機会として、保護者の皆さんにも子どもさんに本を借りてきて読むように勧めたり、ご家庭でメディア利用をやめる時間を設定して親子で読書をされてみてはいかがでしょうか。ご協力をよろしくお願いします。



図書室の窓に「読書の木」
が準備されています！

☆校長室から独り言24☆

教師としての喜びを感じた教え子の言葉…

先日、小学校教諭をしている教え子から、結婚式の案内状が届きました。小学校5～6年時に持ち上がりで担任した教え子で、結婚の報告に来てくれました。「小学生の頃に、先生から、教師をやっていくうえでの基礎をつくっていただきました。」「私が5年生の時、教科等研究会で社会科の授業をされましたよね。地下水の授業でした。たくさんの先生が参観されていて、私ははりきって授業に臨みました。何回挙手をして先生が指名してくれなくて。でも、授業の後半に、地下水位が下がっているのは、白川流域の人口増加が原因ではないかと、町の広報誌の記事を根拠に発表したら、とてもほめていただいたことを覚えています。」「先生がされていた、朝の会での『詩の朗唱』と、全員の自主学習ノートに毎日必ず励ましのコメントを書いて返すことを真似させていただいています。」「先生は学級経営以外に、放課後と土、日は部活指導をされていたんですね。今の自分は学級経営だけで精一杯で、とても信じられません。」

教師冥利に尽きる話を次々に聞かせてくれました。教え子が同じ教師として活躍してくれていることを励みに、そしてそんな若手教師が力を発揮できる学校になるように、今日も泗水小で頑張りたいと思いました。